

これまでの施策に係る意見や課題

- ・フードバンク活動への協力企業の確保と、食品提供側と受取側のマッチングが必要。（フードバンク活動促進のための意見交換会（R3.2）の意見より）
- ・フードドライブの認知度が低く、過去に食品を提供したことのある人が少ない。（フードドライブモデル実施時（R2）の県民へのアンケートより）
- ・家畜飼料として利用可能なエコフィード資源の発掘及びマッチングと、エコフィード利用による畜産物の高付加価値化、ブランド化の推進が必要。

フードバンク活動の促進 に向けた実証

<目的>

小さな規模、エリアでのモデル事例を構築・検証する実証事業を実施し、その事例を普及啓発することで、県内でのフードバンク活動の普及・定着を図る。

<実施内容>

- (1) 富山県食品産業協会にフードバンクコーディネーターを配置
 - ① 食品製造業者への働きかけ・普及啓発
 - ・食品製造業者にフードバンク活動について周知し、食品提供を促す。
 - ② 食品提供先の確保
 - ・社会福祉協議会や子ども食堂が必要とする食品・時期等を把握。
 - ③ 提供側と受取側の需給マッチング
 - ・提供側事業者の所在地、食品の内容・量等を考慮した受取側とのマッチングを図る。
 - ④ 関係者間における合意形成の支援
 - ・食品の衛生的な取扱い等の観点から、提供側と受取側とのルール作りや、合意書の締結を支援。
 - ・受取側が衛生的な取扱いを行えるよう、衛生管理点検表や温湿度チェック表などの記録表の作成・保存等について指導。
- (2) WEBページの制作
フードバンクの実施方法等の情報発信
- (3) 食品製造業者向け研修会の開催



<実施状況>

フードバンク活動に取り組む意向がある事業者の周辺地域で活動する社会福祉協議会等の受取側の確保を進めている。
[想定地域] 富山市、南砺市

令和3年度の主な取組み

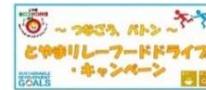
フードドライブの拡大

<目的>

県民の認知度の向上、取組みの浸透・拡大を図るため、様々な主体に向けて実施を呼びかけ、リレーキャンペーンとしてPRする。

<実施内容>

- (1) フードドライブへの支援
実施団体へ資機材の貸出、運用マニュアルを活用したノウハウの提供、食品寄付先との調整、広報協力等を実施。
- (2) フードドライブ実施状況
令和3年9月現在23件
(21団体により11市町村で実施)
 - ・アルビス株式会社（高原町店）
[実施期間] 令和3年7月2日～4日
[提供食品] 24名から397点 81kg
 - ・富山県消費者協会
[実施期間] 令和3年7月19日～8月20日
[提供食品] 354点 76kg



【アルビス株式会社】



【富山県消費者協会】

※ 今後も各地域で実施予定

<活動状況>

- ・平成21年にフードバンクとやまが活動を開始。（取扱量 R2:29t）
- ・令和3年7月には、もったいないフードバンクとなみが活動を開始。

「富山のエコフィード」を利用した畜産物ブランド化の推進

<目的>

畜産農家における飼料自給率の向上及び地域内未利用資源の有効活用を推進するとともに、畜産物の新たなブランド化に取り組む。

<実施内容>

- (1) エコフィードの需給マッチングの推進
 - ① 食品製造業者と畜産農家との需給マッチング
 - ・栄養性と安全性等の分析結果を活用し、畜産農家への飼養管理指導を実施し、食品事業者と畜産農家の需給マッチングを図る。
 - ② エコフィードの成分分析
 - ・規格外農産物（枝豆）の成分分析（1件）
 - ・乳用牛への利用を検討
- (2) 酒粕給与による「とやま和牛」のブランド化
 - ① 酒粕入り補助飼料の開発実証（5農場97頭）
 - ・検討会の開催
 - ・製品化に向けた給与実証
 - ・給与マニュアルの作成



【酒粕入り補助飼料の給与実証】

- ② ブランド化検討会の開催、PR活動

フードバンク活動団体への支援

<支援状況>

国の事業を活用し、フードバンク活動の発展に向けた取り組みを支援。
[事業主体] NPO法人フードバンクとやま
[事業内容] 研修会の開催、活動に関する普及啓発等

今後に向けた取組みの方針

- ・フードバンク活動の普及啓発を行い活動当事者を拡大するとともに、需給マッチングを行い、モデル事例をふまえたフードバンク活動の拡大を図る。
- ・フードドライブを実施する団体のサポートを行うほか、結果をPRすることで、フードドライブの認知度向上と取組み拡大を図る。
- ・酒粕で育った「とやま和牛」のブランド化による酒粕利用量を拡大するとともに、新たなエコフィード資源の発掘に努める。